

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Major dietary patterns and risk of renal cell carcinoma in a prospective cohort of Swedish women. 主な食事のパターンと腎細胞癌の危険:スウェーデンの女性のコホート研究	
執筆者	
Rashidkhani B, Akesson A, Lindblad P, Wolk A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Nutr. 2005;135:1757-62.	
キーワード	
腎細胞癌、食事、食事パターン、因子分析、コホート研究	
要 旨	
<p>(目的) 食事のパターンと腎細胞癌の危険については十分に確立されていない。スウェーデンの女性の主な食事のパターンと腎細胞癌のリスクについて、大規模なコホート研究において明らかにした。</p> <p>(方法) 対象者は、40-76歳のスウェーデンの女性 46,572 人であった。食事に関する情報は FFQ から利用した。主な食事のパターンを明らかにするために因子分析を行った。コックス比例ハザードモデルを利用して、主な食事のパターンと腎細胞癌のリスクを評価した。</p> <p>(結果) 平均 14.3 年という追跡期間中に、93 例の腎細胞癌が見られた。主な食事のパターンとして次の 3 種類が見られた：健康な食事パターン（野菜、トマト、魚、果物、鶏肉、穀物）、西洋風な食事パターン（甘物、加工された肉、精製された穀物、マーガリン/バター、高脂肪の乳製品、フライドポテト、ソフト・ドリンクス、肉）、飲酒に関連した食事パターン（ワイン、ハード・リカー、ビール、スナック）。健康な食事パターンや西洋風な食事パターンは腎細胞癌と関係なかった。しかし、酒飲に関連した食事パターンと腎細胞癌の危険には逆の相関があり、その食事パターンが顕著なほど腎細胞癌の危険は減少した。また、その相関は 65 歳以下の女性でより明らかであった。</p> <p>(結論) 飲酒に関連した食事パターンと腎細胞癌の危険には逆の相関があるものと考えられた。</p>	